

オーラルフレイルと有床義歯補綴臨床

講師

日本歯科大学補綴学第1講座 教授

志賀 博 先生 (75回卒)



略歴

- 1979年3月 同志社大学工学部電子工学科卒業
- 1986年3月 日本歯科大学卒業
- 1990年3月 日本歯科大学大学院歯学研究科修了 (歯学博士)
- 1990年4月 日本歯科大学歯学部助手
- 1991年10月 日本歯科大学歯学部講師
- 1995年4月 日本歯科大学歯学部助教授
- 2004年4月 日本歯科大学歯学部教授

加齢に伴い身体機能が低下しますが、この状態を日本老年医学会は、健康寿命の範囲内で要介護状態の前段階にあるとし、「フレイル」と定義しています。口腔機能の低下に対しては、日本老年歯科医学会が「オーラルフレイル」と定義しています。口腔機能の低下を評価し、適切な介入による口腔機能の向上が求められ始めており、平成30年4月から、口腔機能に関する検査が保険導入されました。

演者らは、特別な知識を必要とせず、誰でも容易に短時間で行うことができる咀嚼機能検査法を開発し、臨床応用してきました。その結果、下顎運動検査と咀嚼能力検査が有床義歯装着者に対し、先進医療を経て平成28年4月に保険導入されました。平成30年4月からは、咬合圧検査が加わり、また咀嚼能力検査や咬合圧検査が単独でも算定できるようになりました。さらに、左右第2大臼歯を含む臼歯4歯以上欠損症例にも適用されるようになりました。

有床義歯咀嚼機能検査、特に咀嚼能力検査は、一般の方々の関心が高く、各イベントで実施すると長蛇の列ができます。この咀嚼能力検査は、患者さんの咀嚼機能、すなわち口腔の健康を維持するために用いることができ、かつ信頼関係を高めることができます。

本講演では、オーラルフレイルと下顎運動検査、咀嚼能力検査、咬合圧検査を紹介し、これらの検査を活用した有床義歯補綴臨床について述べさせていただきます。

日時

平成30年

6月14日(木) 午後7時

会場

日本歯科大学生命歯学部 九段ホール

※当日は日歯生涯研修個人ICカードをご持参ください。
※研修コード2608 単位数3 短縮コード162866